

セットアップカード

UPS用オプションアクセサリ

SNMP WEB BOARD

第6版



目次

1. ハードウェア	1
(1) 梱包開封時.....	1
(2) UPS との接続.....	2
(3) 動作モードの設定	3
(4) IP アドレス設定 (CONFIG スイッチ SW4)	3
(5) IP アドレス表示 (CONFIG スイッチ SW7)	4
2. ソフトウェア	5
(1) 工場出荷時設定	5
(2) 初期設定.....	6

1. ハードウェア

(1) 梱包開封時

① 梱包箱の確認

梱包箱に損傷がないか検査してください。万一、損傷があった場合は直ちにその旨を運搬者に申し出てください。

② 梱包内容の確認

装置を設置する前に以下のものが揃っているかを確認してください。万一不足しているものがある場合は、販売店へご連絡ください。

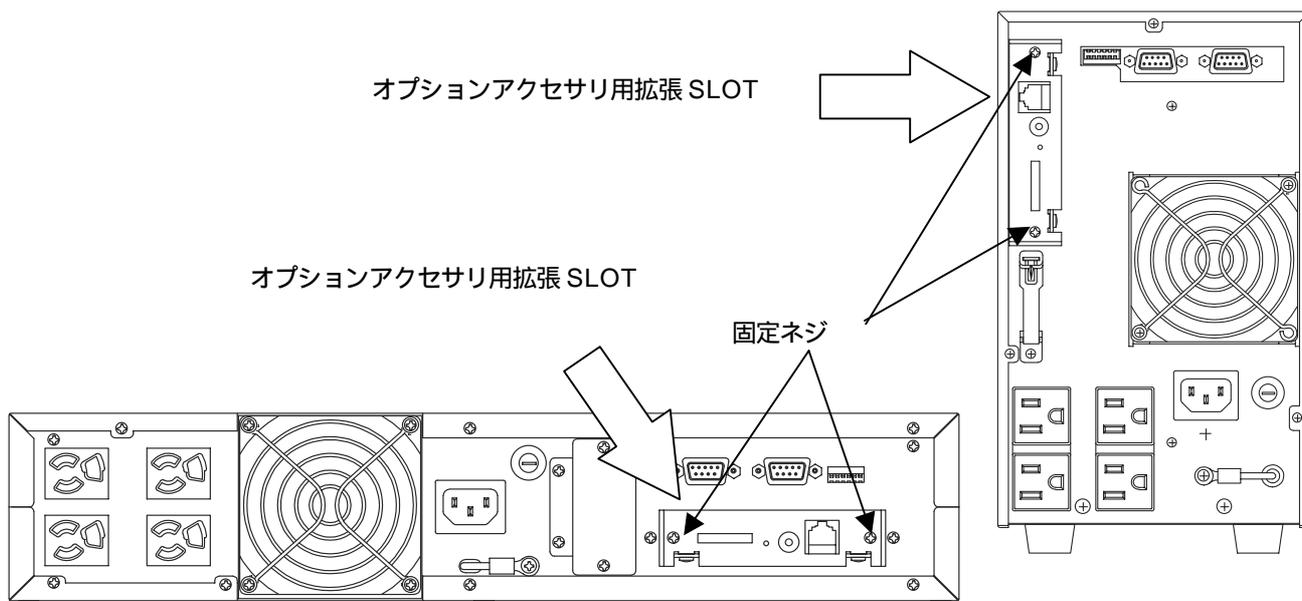
名称	数量
SNMP WEB BOARD (本ボード)	1
CD-ROM (本ボードの下に同梱されています) 取扱説明書、Windows セットアッププログラム、 MIB ファイル、サンプルプログラム、	1
セットアップカード	1
保証書	1

③ 外観の確認

製品や付属品の外観に損傷や変形がないことを確認してください。

(2) UPS との接続

- ① 本ボードを接続する UPS に接続されている装置の電源を全て停止してください。
- ② 本ボードを接続する UPS を停止し、入力ケーブルを抜いて UPS を完全に停止させてください。
※UPS の停止オペレーションは各 UPS の取扱説明書に記載されている手順に従って行ってください。
- ③ UPS のオプションアクセサリ用拡張 SLOT に本ボードを挿入してください。その際、挿入する方向、向きに注意して、慎重に挿入してください。
本ボードを挿入後は SLOT カバーを UPS 付属の固定用ネジでしっかりと固定してください。



- ④ LAN ケーブルはハブと接続する場合はストレートケーブル、コンピュータと直接接続する場合はクロスケーブルをご使用ください。
- ⑤ UPS の入力ケーブルをコンセントに接続し、UPS を起動してください。
※UPS の起動オペレーションは各 UPS の取扱説明書に記載されている手順に従って行ってください。
- ⑥ 10BASE-T もしくは 100BASE-TX ケーブルを本ボードのイーサネットインターフェースに接続してください。
- ⑦ 本ボードに接続した 10BASE-T もしくは 100BASE-TX ケーブルの他方をハブ、ルータ等のネットワーク機器に接続する場合はストレートケーブルをご使用ください。またコンピュータに接続する場合はクロスケーブルをご使用ください。
- ⑧ 本ボードの LINK LED が点灯し、本ボードとネットワーク機器とのリンクが確立されているか確認してください。LINK LED が点灯していない場合はケーブルの接続、使用しているケーブルの種類が間違っていないか UPS 及びネットワーク機器の電源が入っているかを再度確認してください。

(3) 動作モードの設定

CONFIG スイッチ（動作モード設定スイッチ）により動作モードを設定します。

CONFIG スイッチによる動作モードの設定は本ボードの起動時またはリセットにて有効になります。

表 4-1 CONFIG スイッチ設定表

CONFIG スイッチ (SW)	動作モード	内容
SW1	通常動作モード	通常使用時は本モードで使用します。
SW4	IP アドレス設定モード	CONFIG スイッチを使用して本ボードの IP アドレス設定を行うモードです。 ※IP アドレスの設定は WEB ブラウザでも行えます。 <u>詳しくは「4.2(2) ①～⑦」をご参照ください。</u>
SW7	IP アドレス表示モード	CONFIG スイッチを使用して本ボードの IP アドレスを表示するモードです。 ※IP アドレスの設定は WEB ブラウザでも確認できます。 <u>詳しくは「4.2(2) ①～⑦」をご参照ください。</u>
SWA	自己診断モード	本ボードのファームウェアを変更する必要がある場合等の保守時に使用します。 特別な理由がない限りこのモードに設定しないでください。 <u>※保守時以外設定しないでください。</u>
SW0, 2, 3, 5, 6, 8, 9 SWB～F	予約	使用していません。 <u>※設定しないでください。</u>

※特に必要がない場合は SW1 以外設定しないでください。

(4) IP アドレス設定 (CONFIG スイッチ SW4)

CONFIG スイッチで IP アドレスを設定する手順は以下の通りです。

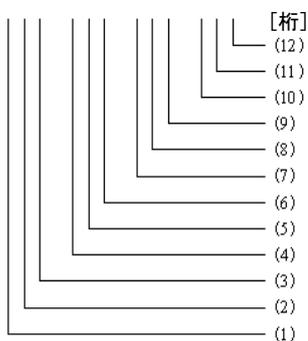
※IP アドレスはブラウザからも設定が行うことができます。詳しくは「5.3(1) ネットワーク」をご参照ください。

- ① CONFIG スイッチを「4」に設定し、RESET スイッチを 1 秒押下すると STATUS LED が全灯します。しばらくすると LED 1 が点灯し、IP アドレス設定モードになります。
(1 桁目を設定するモードになります。)

- ② STATUS LED の表示 (1-12 桁の 10 進値を順番に表示) に該当するアドレスの値を CONFIG スイッチで設定し、RESET スイッチを順次 1 秒押下します。
STATUS LED には桁数が 16 進数 (HEX) で表示されます。IP アドレスは上位の桁から入力します。

アドレス構成 (10 進12桁)

IPアドレス : 999.999.999.999



例) 192.168.0.10 を設定する場合

設定桁	STATUS LED				CONFIG スイッチ
	4	3	2	1	
1 桁目					1
2 桁目					9
3 桁目					2
4 桁目					1
5 桁目					6
6 桁目					8
7 桁目					0
8 桁目					0
9 桁目					0
10 桁目					0
11 桁目					1
12 桁目					0

STATUS LED 状態 : :消灯、 :点灯

- ③ 12桁まで正常に入力されると、LEDが3回全点滅した後、IPアドレスの1桁目をSTATUS LEDに表示します。

以降RESETスイッチが順次押される毎に2桁目以降を順次STATUS LEDに表示します。12桁目まで表示されるとSTATUS LEDが全点滅します。

- ④ 設定が終了したら、LEDが全点滅している間に、CONFIGスイッチを1にし、RESETスイッチを1秒押下して通常動作モードにすることにより、設定したIPアドレスが有効になります。

例) 192.168.0.10を設定した場合

設定桁	STATUS LED				設定アドレス
	4	3	2	1	
1桁目					1
2桁目					9
3桁目					2
4桁目					1
5桁目					6
6桁目					8
7桁目					0
8桁目					0
9桁目					0
10桁目					0
11桁目					1
12桁目					0

STATUS LED 状態 : :消灯、 :点灯

(5) IP アドレス表示 (CONFIG スイッチ SW7)

CONFIG スイッチで IP アドレスを表示する手順は以下の通りです。

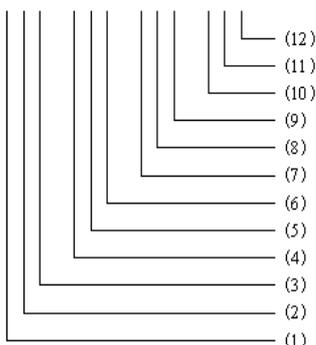
※IPアドレスはブラウザからも確認できます。詳しくは「5.3(1) ネットワーク」をご参照ください。

- ① CONFIG スイッチを「7」に設定し、RESET スイッチを1秒押下すると STATUS LED が全灯します。しばらくすると IP アドレスの上位 1桁目が表示されます。

- ② RESET スイッチを順次 1秒押下すると、STATUS LED の表示 (1-12 桁の 10進値を順番に表示) に該当するアドレスの値が表示されます。STATUS LED には桁数が 16進数 (HEX) で表示されます。IP アドレスは上位の桁から表示されます。

アドレス構成 (10進12桁)

IPアドレス : 999.999.999.999



例) 192.168.0.10を設定する場合

設定桁	STATUS LED				CONFIG スイッチ
	4	3	2	1	
1桁目					1
2桁目					9
3桁目					2
4桁目					1
5桁目					6
6桁目					8
7桁目					0
8桁目					0
9桁目					0
10桁目					0
11桁目					1
12桁目					0

STATUS LED 状態 : :消灯、 :点灯

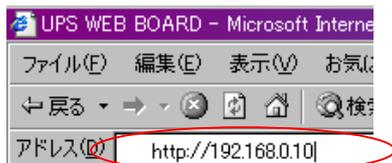
2. ソフトウェア

(1) 工場出荷時設定

項番	項目名	初期値	
1	シャットダウン設定	停電確認時間(ディレイ 1)	180 秒
2		シャットダウン告知時間(ディレイ 2)	10 秒
3		シャットダウン待機時間(ディレイ 3)	60 秒
4		UPS 停止時間(ディレイ 4)	1 分
5		停電回復後の UPS 再起動動作	起動
6		復電後起動遅延時間	0 秒
7		シャットダウン実行	なし
8	スケジュール設定	スケジュール時間	なし
9	イベント・スクリプト設定	各イベント実行および 16 個のスクリプト設定	なし
10	ネットワーク	ボード設定：IP アドレス	192.168. 0.10
11		ボード設定：サブネットマスク	255.255.255.0
12		ボード設定：デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
13		ボード設定：HTTP ポート番号	80
14		ボード設定：ソケットサーバ ポート番号	8192
15		メール設定：送信メールサーバアドレス	0.0.0.0
16		メール設定：送信先 4 ヶ所	なし
17		メール設定：送信者名	UPS
18		メール設定：件名	空白(UPS イベント発生)
19		Windows Message 設定：送信先 4 ヶ所	0.0.0.0
20		SNMP 設定：コミュニティ名	public
21		SNMP 設定：送信漢字コード	Shift-JIS
22		SNMP 設定：MIB 設定	JEMA
23		SNMP 設定：トラップ送信先アドレス 8 ヶ所	0.0.0.0
24		接続制限：制限 IP アドレス 8 ヶ所	0.0.0.0
25		時刻設定	本ボード時刻
26	NTP サーバーアドレス		0.0.0.0
27	アカウント・パスワード	ユーザ名	upsuser
28	パスワード		upsuser
29	動作モード	FTP サーバ動作	起動
30		ソケットサーバ動作	起動
31		SNMP・MIB 設定	JEMA
32	装置情報	管理者	agent@snmp-agent (半角60文字以内、全角30文字)
33		接続装置	UPS (半角 16 文字以内、全角 8 文字)
34		設置場所	office (半角 60 文字以内、全角 30 文字)
35		コメント	なし (半角 10 文字以内、全角 5 文字)
36		バッテリー交換実施日	00.01.01
37		バッテリー交換実施回数	0
38		ブザー鳴動	全ての異常、警告条件の鳴動

(2) 初期設定

- ① 本ボードにアクセスするコンピュータの IP アドレスをクラス C のセグメント内の 192.168.0.xxx (192.168.0.0、192.168.0.10、192.168.0.255 以外) に設定変更してください。
- ② コンピュータ上で、ウェブブラウザを起動します。
- ③ `http://IP アドレス` をアドレスバーに入力し、Enter を押してください。
例 : `http://192.168.0.10` (暗号化なし)



※ 尚、プロキシサーバー経由で本ボードにアクセスしないでください。ご使用のブラウザの設定を「プロキシサーバーを使用しない」に設定し、本ボードの IP アドレスを設定してください。
「プロキシサーバーを使用しない」に設定されていない場合、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

- ④ ユーザ名およびパスワードを入力し、ログインボタンを押してください。
(工場出荷時はユーザ名 : upsuser、パスワード : upsuser です)



- ⑤ 初めて起動した場合、および、Ver. 3.3 以下より Ver. 3.4 以上にバージョンアップした場合、選択画面が表示されます。

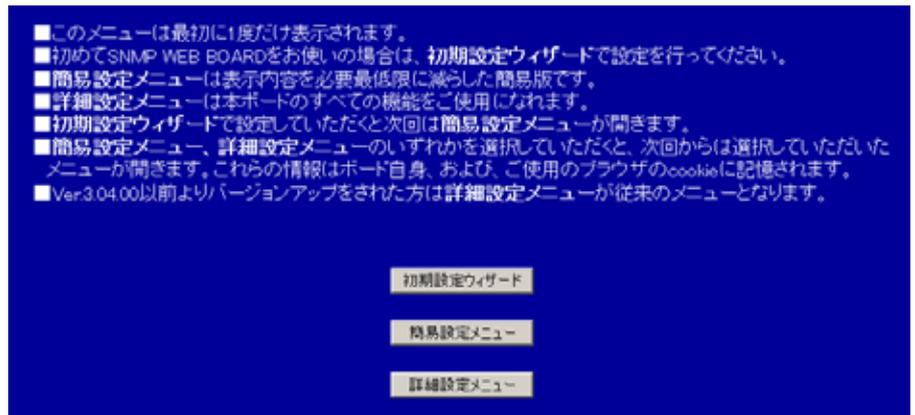
初期設定ウィザードを選択しますと、最低限必要な初期設定用のメニューが順番に表示されます。

簡易設定メニューは表示内容を必要最低限に減らした簡易版です。

詳細設定メニューは本ボードのすべての機能をご使用になれます。

簡易設定メニュー、詳細設定メニューは左メニューでいつでも変更可能です。

以降、初期設定ウィザードを選択したものとします。また、初期設定ウィザードは左画面の基本設定の初期設定ウィザードによりいつでも起動可能です。もし、下記メニューが出ない場合も左画面の基本設定の初期設定ウィザードより起動してください。



- ⑥ 初期設定ウィザードを選択すると最初にボタンの説明画面が表示されます。

ここでは「設定し次へ」か「スキップ」のいずれかで次の画面に移動します。

【注意】

- 1) 中断する場合は必ず中断ボタンで中断してください。それ以外の方法で中断すると、それまでの設定が反映されてしまいます。
- 2) 初期化ウィザード中に他のブラウザや PC より本ボードにアクセスしないでください。表示内容が本来と異なったり、中断処理が正しく行えなくなります。

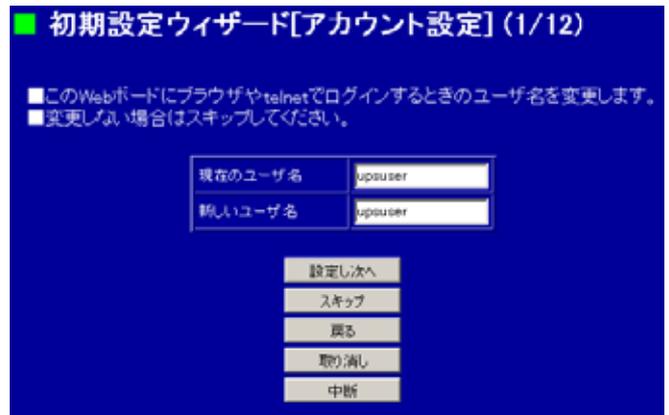
■ 初期設定ウィザード[はじめに]

- 初期化設定ウィザードでは必要最小限の設定を簡単にもれなく実施するためのものです。
- 各ページには設定項目名と現在の値が表示されます。変更を行う場合は値を書き換えてください。
- 下にはいくつかのボタンが表示されます。

動作	ボタン
設定し次のページに行く 設定を反映し、次のページに移ります。 その際に、設定値が正しいかの判定も行います。	設定し次へ
設定せず次のページに行く 設定が変更されていても無視し、次のページに行きます。	スキップ
設定せず前のページに戻る 設定が変更されていても無視し、前のページに戻ります。	戻る
設定を元に戻す 設定が変更されていても元の状態に戻します。ページの移動はありません。	取り消し
設定を中断する これまでの設定を破棄し、初期化ウィザード処理を中断します。 初期化ウィザード処理を中断する場合は必ずこのボタンを押してください。 これ以外の方法で中断するとそれまでの情報が設定されてしまいます。	中断
最終の確認ページから戻って再度設定する場合、以下の2つのボタンが現れます。	
設定し最終ページに行く 設定を反映し、最終ページに移ります。 その際に、設定値が正しいかの判定も行います。	設定し最終へ
設定せず最終ページに行く 設定が変更されていても無視し、最終ページに移ります。	設定せず最終へ

⑦ 初期設定ウィザード[アカウント設定] (1/12)

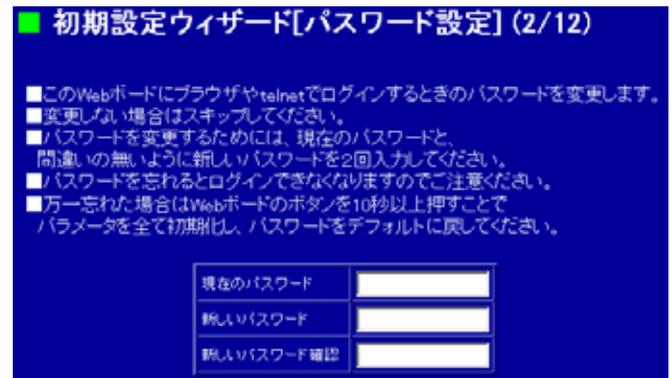
この Web ボードにブラウザや telnet でログインするときのユーザ名を変更します。変更しない場合はスキップしてください。



⑧ 初期設定ウィザード[パスワード設定] (2/12)

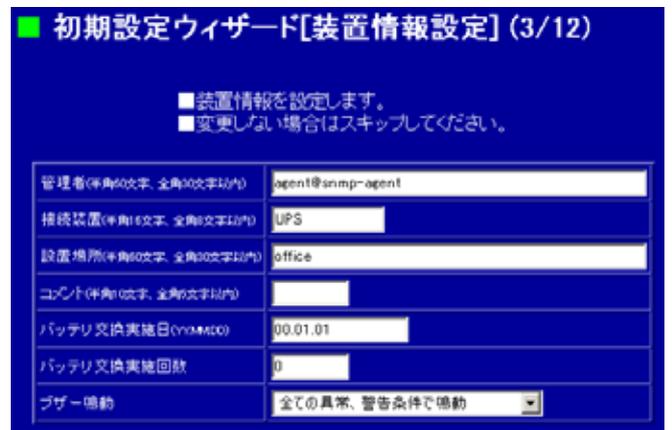
この Web ボードにブラウザや telnet でログインするときのパスワードを変更します。変更しない場合はスキップしてください。パスワードを変更するためには、現在のパスワードと、間違いの無いように新しいパスワードを2回入力してください。
【注意】パスワードを忘れるとログインできなくなりますのでご注意ください。

万一忘れた場合は Web ボードのリセットボタンを 10 秒以上押すことでパラメータを全て初期化し、パスワードをデフォルトに戻してください。デフォルトのパスワードは”upsuser”です。



⑨ 初期設定ウィザード[装置情報設定] (3/12)

装置情報を設定します。
変更しない場合はスキップしてください。



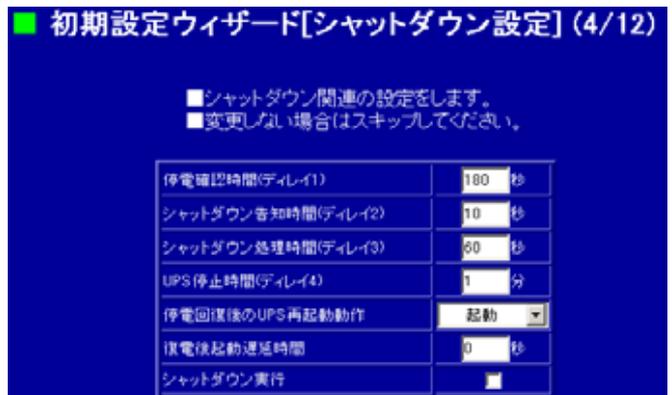
⑩ 初期設定ウィザード[シャットダウン設定] (4/12)

1. 停電確認時間(ディレイ 1)

停電が発生した場合の電源復旧待機時間です。この時間の間に停電が復旧した場合は停電は無かったものとして出力を継続します。数値は5桁まで入力できます。

2. シャットダウン告知時間(ディレイ 2)

シャットダウン前の準備時間です。停電確認時間が経過しても停電が回復しなかった場合、および停電以外のシャットダウンはこのフェーズから始まります。このフェーズが始まると「シャットダウン準備中」イベントとなり、イベント設定の「シャットダウン準備中」にチェックが入っている処理が実行されます。この時間が経過



後、実際のシャットダウン処理が行われますので、そのための告知処理を行う時間です。
数値は5桁まで入力できます。

この時間以降に停電が復旧してもこれらの処理を継続し、UPSの出力を停止します。

3. シャットダウン処理時間(ディレイ 3)

このフェーズが始まると「シャットダウン開始」イベントとなり、イベント設定の「シャットダウン開始」にチェックが入っている処理が実行されます。通常、ここでシャットダウンスクリプトを実行し、負荷装置のシャットダウンを行います。ここで指定されている時間より実際のシャットダウン時間が長い場合は、その時間が有効となります。数値は5桁まで入力できます。

4. UPS 停止時間(ディレイ 4)

UPS 停止時間です。数値は2桁まで入力できます。

5. 停電回復後の UPS 再起動動作

停電による UPS 停止動作中または停止後に電源が復旧した場合に UPS 停止後の動作形態を指定します。「起動」の場合は一度 UPS 停止後に自動的に再起動を行います、「停止」の場合には UPS 停止後に再起動は行われません。

6. 復電後起動遅延時間

復電後の起動を遅延設定することができます。数値(秒)は3桁まで入力できます。

7. シャットダウン実行

このチェックボタンをチェックすると、停電時およびバッテリー限界時に停電シーケンス動作を実行します。尚、バッテリー限界時はディレイ3からの動作となります。また監視ソフトをご使用になる場合はこのチェックボタンを外してください。

⑪ 初期設定ウィザード[ネットワーク設定] (5/12)

本ボードの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスを設定します。

IPアドレス	192.168.0.10
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0

⑫ 初期設定ウィザード[メール設定] (6/12)

メール関係の設定をします。

変更しない場合、またはメールを使用しない場合はスキップしてください。E-Mail アドレスは最大4ヶ所まで設定できます。残りを設定するにはネットワークのメール設定で設定できます。

送信メールサーバアドレスには送信サーバの IP アドレスを入力してください。イベント発生時の通知やログの自動送信時に使用します。

E-MAIL アドレスにはイベント発生時に送信する先を登録します。ログの送信はログ設定で行います。送信者名はメールの送信者名になります。メールサーバの種類、設定によっては送信者名に有効な MAIL アドレスを必要とすることもあります。件名はメールの件名となり、省略時は”UPS イベント発生”となります。任意の文字が指定できますが、\$e はイベント名に、\$l は本ボードの IP アドレスに、\$m は送信者名の項目で設定した文字列に展開されます。

送信メールサーバアドレス	192.1.1.210
E-MAILアドレス	hari-itsuo@mail.yutakaden
送信者名	UPS117-変更2
件名(省略時は“UPSイベント発生”になります)	\$e\$l\$m 播2

件名には“\$e”->イベント名、“\$l”->IPアドレス、“\$m”->送信者名が使用できます。

テストを実行すると上記値は設定されます。

Mail送信テスト

⑬ 初期設定ウィザード [Windows メッセージ設定] (7/12)

Windows メッセージの送信先 IP アドレスを設定をします。Windows メッセージを使用しない場合はスキップしてください。送信先 IP アドレスは最大 4 ケ所まで設定できます。残りを設定するにはネットワークの **Windows Message 設定** で設定できます。



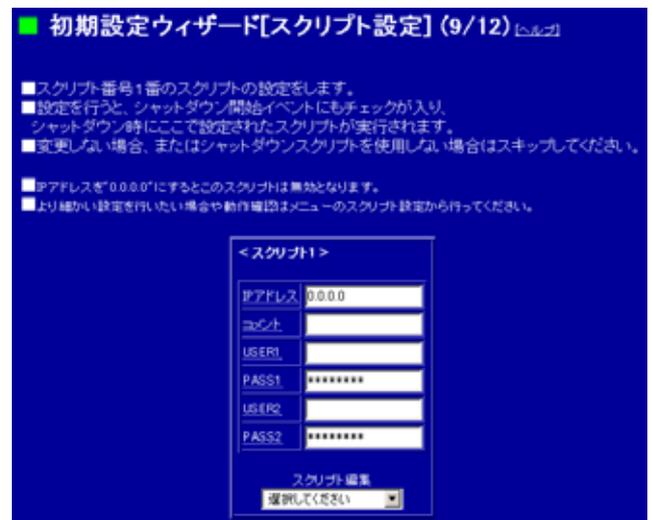
⑭ 初期設定ウィザード [SNMP 設定] (8/12)

SNMP 関係の設定をします。
変更しない場合、またはSNMPを使用しない場合はスキップしてください。トラップ先 IP アドレスは最大 8 ケ所まで設定できます。残りを設定するにはネットワークの **SNMP トラップ送信先アドレス** で設定できます。



⑮ 初期設定ウィザード [スクリプト設定] (9/12)

スクリプト番号 1 番のスクリプトの設定をします。設定を行うと、シャットダウン開始イベントにもチェックが入り、シャットダウン時にここで設定されたスクリプトが実行されます。IP アドレスを "0.0.0.0" にするとこのスクリプトは無効となり、シャットダウン開始イベントのチェックもクリアされます。 変更しない場合、またはシャットダウンスクリプトを使用しない場合はスキップしてください。



スクリプト番号 2 番以降の設定やより詳細な設定、スクリプトの編集、動作確認は**スクリプト設定**で設定できます。

1. IP アドレス

シャットダウンを行うターゲットの IP アドレスを設定します。

2. コメント

任意の文字列を書き込めます。半角文字換算で 31 文字まで記入できます。

3. USER1、PASS1、USER2、PASS2

スクリプト内で使用される変数 \$user1、\$pass1、\$user2、\$pass2 があれば、それぞれに置き換わります。通常、telnet、ssh でログインするためのユーザ名とパスワードを設定します。

Unix 系は最初は一般ユーザでログインします。そのためのユーザ名を **USER1**、パスワードを **PASS1** で指定します。その後、root にログインし直す際のユーザ名を **USER2**、パスワードを **PASS2** で指定します。(通常は "su" コマンドで root に移行する際はユーザ名は不要ですので、USER2 は指定しなくても結構です)

Windows では直接 "administrator" にログインできますので、そのためのユーザ名を **USER1**、パスワードを **PASS1** の指定だけで結構です。

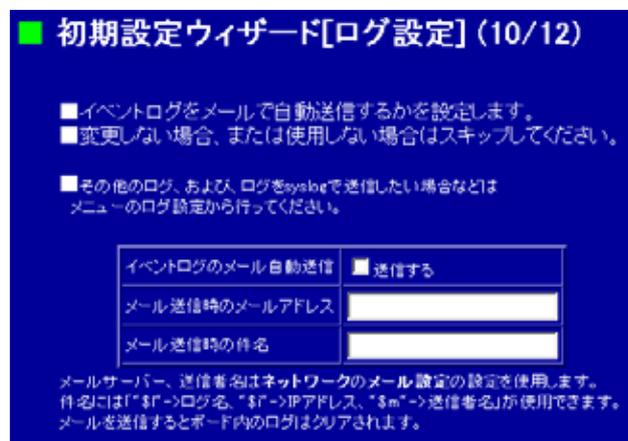
4. スクリプト編集

一般的な OS のシャットダウンスクリプトが選択できるようになっています。ここでは Windows 系 (2000, XP)、Linux 系 (RedHat、SUSE 等)、Solaris 系、MacOSX、HP-UX10/11、FreeBSD 系、QNX、Linux OpenSSH、Solaris OpenSSH、Mac OSX OpenSSH が選択可能です。なお、選択したスクリプトはあくまで雛形であり、実際に動作するかどうかの確認 (テストボタンで確認) や、バージョン等による差の修正は「スクリプト設定」で設定してください。

⑩ 初期設定ウィザード[ログ設定] (10/12)

イベントログをメールで自動送信するかを設定します。変更しない場合、または使用しない場合はスキップしてください。

その他のログ、および、ログを syslog で送信したい場合などはメニューのログ設定から行ってください。



初期設定ウィザード[時刻設定] (11/12)

このボードの時刻を設定します。変更しない場合はスキップしてください。

このページのみ一度「設定」または「設定および更新」ボタンで更新し、結果を確認してから下のボタンでページを移動してください。

時刻を設定した後は「中断」ボタンで中断しても変更前の時刻に戻すことはできません。

赤く表示されているのがこのボードの表示したときの時刻です。その下にはこのブラウザ表示を行っているコンピュータの表示した時点の時刻が設定されています。この画面を表示後すぐに設定ボタンをクリックするとその時間がボードの時間となります。

NTP サーバーが使用できる環境では下段の NTP サーバーの IP アドレスを設定すると 1 時間に一度、NTP サーバーの時刻によりボードの時刻を調整します。



⑱ 初期設定ウィザード[確認] (12/12)

全ての設定が終われば確認画面が表示されます。ここで、設定ミス等があれば「再設定」ボタンで再度、そのメニューに移ります。その際は「設定し最終へ」と「設定せず最終へ」のボタンが表示されます。

ここで「設定し終了」ボタンをクリックすると設定が保存され、ボードを再設定するために自動的に再起動が行われます。



<UNIX システム (Linux、Solaris など) をシャットダウン>

telnet または SSH (Secure Shell) で接続できる環境に設定してください。

telnet、SSH の設定につきましては付属 CD-ROM の manual フォルダ内にある「マニュアルの付録の telnet、SSH 設定」をご覧ください。

<Windows システム (Windows2000、XP 以降) をシャットダウン>

(i) 操作内容

- ・ telnet サービス : システム制御の有効 (状態: 開始、スタートアップ: 自動)
- ・ Messenger サービス : Windows へのメッセージ通知有効 (状態: 開始、スタートアップ: 自動)
- ・ shutdown.exe : システム・シャットダウン用に最新版を system32 フォルダにコピー
- ・ telnet 設定 : 認証条件 (Passwd のみ)、FireWall 例外設定 (telnet ポート (23))

(ii) 自動設定

- ① 上記操作を自動的にを行うため、付属 CD-ROM の winsetup フォルダ内の「winsetup.exe」を起動してください。「winsetup.exe」を起動すると、右記画面が表示されます。



- ② 画面上の「実行」ボタンを押しセットアップを実行してください。
システムがWindows2000の場合、「shutdown」ファイルを¥WINNT¥system32フォルダにコピーします。右記ポップアップ・メッセージのOKボタンを押すと処理を続行します。



- ③ 右記ポップアップ・メッセージが表示されましたら、処理は終了です。ポップアップ・メッセージを閉じ、「終了」ボタンで処理を終了してください。

